

越前うにを育む藻場の保全と継承

梶生態系保全活動グループ

地域の特徴と課題

梶地区は福井県坂井市三国町に位置し、越前加賀海岸国定公園内にある。当地の藻場は、「日本三大珍味」のひとつ「越前うに」などの名産品を育む。一方で、これまで藻場管理を担ってきた漁業就業者の減少と高齢化が著しい。藻場保全活動を継続しながら、地域から新規就業者を排出する体制づくりが求められた。



活動方針

当地では、①「越前うに」を育む藻場とその多様性の保全、②地域住民の理解増進を図ることを基本方針として掲げた。

運営体制は、地元漁業者と地区自治会全員を構成員とし、活動は全員参加による人海戦術とした。この運営体制は、藻場教育活動においても地区全体で参加者を募りやすいメリットを持つ。また、非漁業者が事務サポートをする体制を構築したことで、事業の円滑かつ効率的な実施が図れている。

「越前うに」を育む藻場とその多様性の保全

当地では、①岩盤清掃、②ホンダワラの間引き、③流域における植林、④岩おこし（その他の特任活動）が主に行われている。

なかでも「その他の特任活動」として認められている「岩おこし」は当地の特徴を強く反映している。これは、海底の転石を半回転させることで、①浮石状態にして底性生物の生息場所を確保する。②海藻の着底基質を更新する。③漂砂を払拭する、の3つの効果を目論んでいる。

また、「岩おこし」はウニの密度管理としても重要な役割を持つ。種ウニを「岩おこし」の際に回収し、藻場に移植することで、ウニの身入りを改善させている。それと同時に、間接的に「ウニ焼け」警戒地区のウニの密度管理につながっている。



岩盤清掃の様子



ホンダワラ間引きの様子



岩おこしの様子

地域住民の理解増進

海を知らない地元の子供に、海と漁村への親近感を感じてもらいたいと考え、さまざまな取り組みを実施している。

海女体験などのアクティビティでは「子供たちのこんな笑顔を日常生活で見たことがない」と関係者は活動の意義を実感している。釣り・料理体験では、活動組織の代表が自ら船を出す。また、地元の英知を結集して作り上げた漁場マップの配布は、漁場の名称が地域住民の共通言語だったころの漁村文化を継承するための良い教材となっている。



海女体験の様子



梶浦の地先名称(漁場マップ)

活動の効果と課題

当地は幸いなことに、大規模な磯焼けなどは発生しておらず、比較的良好な藻場を保持できている。ただし、本事業の活動を通じてかろうじて現状規模の藻場が保持されているという認識のもとにある。一方で、藻場に依拠した磯根資源の状況は万全とまではいかない。海女は「バフンウニが減った」と言う。活動の継続が求められる一方で、活動を担っている漁業者の減少と高齢化はいまだ改善されていない。

担い手確保を目指す教育活動では、地元理解の向上や文化的な副次的効果が認められる。父兄で参加する当該教育活動は、親世代にも海での遊ばせ方を学ぶことができる教育の場として受け入れられた。郷土料理体験では、当地の食文化消滅の危機を阻止した。

一方で、教育活動の参加率は減少傾向にあるという。活動時期である夏シーズンは、他の行事とも重なる。価値観の多様化は必ずしも当該活動を最優先させない。加えて、新型コロナウイルス感染症拡大により、こうした教育活動も軒並み中止してきた。活動を再開させるのは、今まで通りに継続していくよりも大きな労力を要するようになると事務局は危惧している。



藻場の様子



ウニ剥き